

■■■ 元気なうちに整える ■■■

ゆるい しゅうかつしんぶん 終活新聞

2021年(令和3年)8月

第22号

終活は人生を終わることへの準備だけではなく、人生をよりよく生きること。生活の中で知っておくとお得な情報をわかりやすくお届けします！

従来にとらわれない終活でOK！ 遺影写真について

遺影とは、生前の故人を描いた肖像画や写真のこと。葬儀で祭壇に飾られる故人の写真が指すことが多いです。位牌のような仏具ではありません。葬儀が終わり、自宅の仏壇近くに四十九日まで飾られ、故人を偲びます。遺影は、仏間に先祖代々の写真がずらっと並んでいるイメージがあるかもしれませんが、飾らなくても問題ありません。部屋に合うよう小さいサイズにしたり、インテリアに合わせてフレームを変えることも自由です。従来のかたちに無理にとらわれなくても、故人を思う気持ちがあれば問題はありません。

遺影写真は、亡くなってから家族が既存のスナップ写真やスマホやデジカメで撮影したデータ写真を慌てて探し、遺影にする場合が多いです。

【既存の写真から遺影用写真を選ぶポイント】

- 故人が鮮明に写っている
- 胸より上が写っている
- 親指(10円玉)以上の大きさ
- 故人らしい写真

遺影写真は、背景や服装も加工してもらえます。自分で遺影写真を準備すると5,000~6,000円くらい。葬儀直前に葬儀屋さんで依頼する場合は、5~6倍かかると言われています。

遺影写真の飾り方

住宅事情も変わり、仏間がない、先祖代々の写真は飾らないご家庭も多くなりました。従来のように飾らなくても、自分のスタイルに合った方法で、故人を思い出せるように遺影を飾るとよいでしょう。

- ◎ 小さいサイズの遺影を飾る
- ◎ 額縁やフレームを変える
- ◎ 故人の自然なスナップ写真を飾る
- ◎ デジタル写真をスライドショーで流す

遺影写真あれこれ

遺影写真を自分で準備される人が多くなりました。前もって準備できると、自分が納得でき、葬儀でバタバタする家族も写真を探す時間が減り助かります。データ写真加工技術の向上で、背景や着替えが自然に変更できます。また、カメラスタジオで楽しみながら遺影撮影をする人も多くなりました。お子様向けのスタジオアリスでも、シニアフォトの展開をしています。

□ 自分や家族の写真を撮影しておきましょう！

東京2020オリンピック、1年延期されコロナ禍でほぼ無観客での開催。選手のがんばりに勇気と元気ももらっています。その瞬間瞬間をあとで振り返ることができるのが、写真や動画。第20号では、素敵な写真を持っておくことをおすすめしました。持っていますか？だんだんと撮影する機会も減り、自分の写真は少なくなります。自分やご家族の素敵な写真をぜひ撮影しておきましょう。急に遺影が必要になっても、いい写真があれば使えます。ただし、遺影写真という言葉をいきなり使って撮影することはタブーです。「終活」に関係することは、終活を意識しない人にとっては、不謹慎、忌み嫌うもの。「コロナでなかなか会えないからね」といったやさしい会話で、コミュニケーションと終活をおすすめします。■猛暑・酷暑・残暑…暑い日々が続きます。熱中症の4割は自宅というデータもありますので、十分お気をつけてお過ごしください。



「終活ノオト」
公式LINE